

伊豆大島 防災の手引

【地震・津波編】



岡田港

1923 年 9 月 1 日 大正型関東地震が発生し
推定 12 メートルの巨大津波が岡田港を襲った

2019（平成 31）年 4 月

東京都大島町

目 次

地震編

1. 巨大地震の発生する仕組み 1
2. 地震が起きたら 2
3. 日頃からの備え 3
4. 地震情報 4
5. 伊豆大島で過去に起こった大きな地震 7
6. 元禄型関東地震・南海トラフ沿いで発生する巨大地震に備える . . 8

津波編

1. 津波の発生する仕組みと特徴 9
2. 津波から身を守るには 10
3. 津波避難マップ利用の手引 11
4. 日頃からの備え 13
5. 津波情報 13
6. 伊豆大島の過去の津波災害 14
7. 南海トラフ沿いの巨大地震と元禄型関東地震による津波の想定 . 15
8. 大島町地域ごとの津波避難計画 17

巻末資料：大島町津波避難マップ

裏 表 紙：わが家の防災メモ

地震編

巨大地震の震源域に囲まれている伊豆大島

相模湾から房総半島沖へ伸びる相模トラフでは、元禄型関東地震（1703 年）や大正型関東地震（1923 年）が起きました。駿河湾から日向灘沖へ延びる南海トラフでは、東海地震（1854 年）や東南海地震（1944 年）が起きました。これらの地震はプレート境界で発生する巨大地震です。2011 年 3 月 11 日東北地方太平洋沖地震もプレート境界で起きました。プレート境界で発生する巨大地震は大津波を伴います。そして、長い間には繰り返し発生します。特に南海トラフ沿いでは、近い将来に巨大地震の発生する可能性が指摘されています。また、伊豆大島近海では、地震が数日間に多発することがあります。これはプレート境界の巨大地震ではありませんが、震源が浅いために揺れが大きくなることがあります。1978 年には震度 5 の伊豆大島近海地震が起きました。

地震から身を守るために

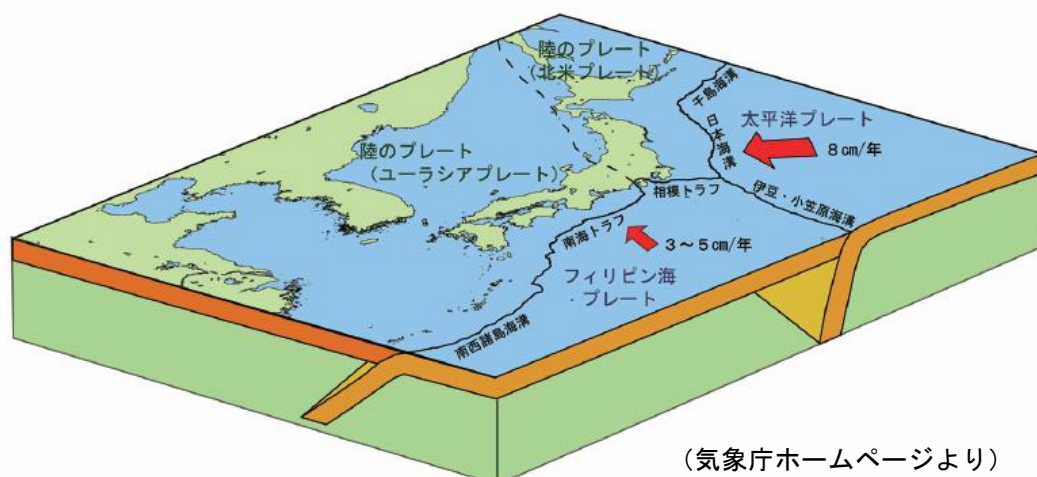
このような地震による被害を軽減し、確実に身を守るためには、地震の発生する仕組みや地震による被害の地域的な特徴を理解し、日頃から備えをしておくことが大切です。

1. 巨大地震の発生する仕組み

【日本付近のプレートとプレート境界で発生する巨大地震】

地球の表面は 10 数枚の岩盤（プレート）でおおわれています。日本付近には、下の図に示すように 4 つのプレートがあり、北米プレートとユーラシアプレートは、陸のプレート、太平洋プレートとフィリピン海プレートは、海のプレートです。海のプレートは年に 3～8cm の速さで移動し、陸のプレートの下へ沈み込んでいます。

海のプレートが沈み込むときに、陸のプレートが引きずり込まれ、ひずみが蓄積されます。そして、陸側のプレートが堪えられなくなると、跳ね上がるように動いて地震が発生します。これが、プレート境界で発生する地震の仕組みです。プレートが広範囲に大きく動くと巨大地震になり、津波が発生します。



2. 地震が起きたら

【揺れたら】

◎まず、身の安全を確保する

- ・落ち着いて姿勢を低くし、頭を保護して、テーブルの下などに隠れましょう。

◎あわてて、外へ飛び出さない

- ・出口付近は、瓦や窓ガラスの破片などが落ちてきて危険です。
- ・余裕があれば窓やドアを開けて出口を確保しておきましょう。地震の揺れでドアなどが歪んで開かなくなることがあります。

◎無理して火を消そうとしない

- ・火を消す機会は3回あります。小さい揺れを感じたとき、大きな揺れがおさまったとき、出火したときです。最近のガスコンロなどは、揺れると自動的に消火する機能がありますので、その場合にはガスコンロを無理して消さないようにしましょう。



(気象庁ホームページより)

【揺れがおさまったら】・・・1～2分で大きな揺れはおさまります

◎海の近くでは津波！避難！

- ・津波が予想される地域では、ただちに避難場所や高台などへ避難しましょう。

◎がけ崩れに警戒

- ・がけ崩れの恐れがある地域でも、周囲の状況に注意して、避難しましょう。

◎火元を確認する、家族を確認する

◎靴を履いて、非常持ち出し品を準備する

◎余震に注意

◎津波情報・地震情報・防災行政無線の放送を確認する

- ・津波情報や地震情報を確認しましょう。防災行政無線の放送による大島町からの情報も確認しましょう。
- ・津波による浸水の恐れがない地域では、落ち着いて、家族の安否、火元の確認、地震情報、津波情報、防災行政無線の放送を確認し、避難の準備をしましょう。

【もし火災が起きたら】

◎大声で知らせる

◎子ども、お年寄りを避難させる

◎火が小さいうちに消火器で消す

- ・大声で火事を知らせ、家の中にいる人を避難させましょう。
- ・余震に注意しながら、火が小さいうちに消しましょう。
- ・バケツリレーなど協力して消火にあたきましょう。
- ・火が大きくなり、危険を感じたら無理せずに身を守りましょう。



(消防庁ホームページより)

【近所で協力】

- ◎自宅が無事な場合は近所の状況を確認する
- ◎近所に被災者がいたら、消防団等が到着するまで協力して救助活動を行う

【避難する場合】

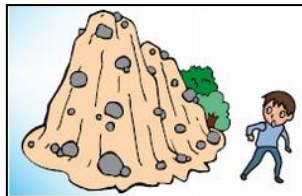
- ◎できればガス栓を止め、電源ブレーカーを落とし水道の元栓を閉める
- ◎非常持ち出し品を持って、玄関に行先メモを残し、家族との連絡をとる
- ◎自主防災組織でまとまって避難をする、緊急時には自主的に避難する
 - ・避難勧告や避難指示が発令されたら、班ごとに一時集合場所に集まり、自主防災組織の班長や町役場職員、消防団員の指示に従って避難場所に避難しましょう。
 - ・隣近所に声をかけ、お互いに協力し合いながら避難しましょう。
 - ・原則として徒歩で避難して下さい。災害時要配慮者などの避難に車を使用する場合は、歩行者、道路の地割れ、ブロック塀の倒壊など周辺の状況に十分に注意しましょう。

【外出先や島外では】

- ◎外では塀・がけから離れる、看板や割れたガラスの落下に注意する
- ◎電車・バスでは、つり革や手すりにしっかりつかまる
- ◎駅では落下物に注意し、改札口に殺到しない
- ◎デパートではあわてず、商品の落下に注意し、出口に殺到しない
- ◎エレベーターでは最寄りの階に停止させ、すぐに降りる
- ◎運転中はゆるやかに速度を落とし、ハザードをつけて端に寄せて停車する



ブロック塀・がけから離れる



つり革につかまる



ハザードをつけて停車
(気象庁ホームページより)

3. 日頃からの備え

地震を防ぐことはできませんが、日ごろから備えをしておけば、被害を軽減することができます。

- ◎地震が起きた場合にどうするかを家庭で話し合っておく
- ◎タンスや本棚などは、しっかり固定する
- ◎ガラス製品、重い物、かたい物などは棚の上に置かない
- ◎ブロック塀や石塀などで倒壊の危険があるものは撤去や改修を行う
- ◎自主防災組織の班や班長、班員の名前を確認する
- ◎避難経路や一時集合場所、避難場所を確認する
- ◎戸別受信機の点検、飲料水・食料を備蓄し、非常持ち出し品を用意しておく
- ◎耐震自動消火装置や安全装置のついた製品を使用する

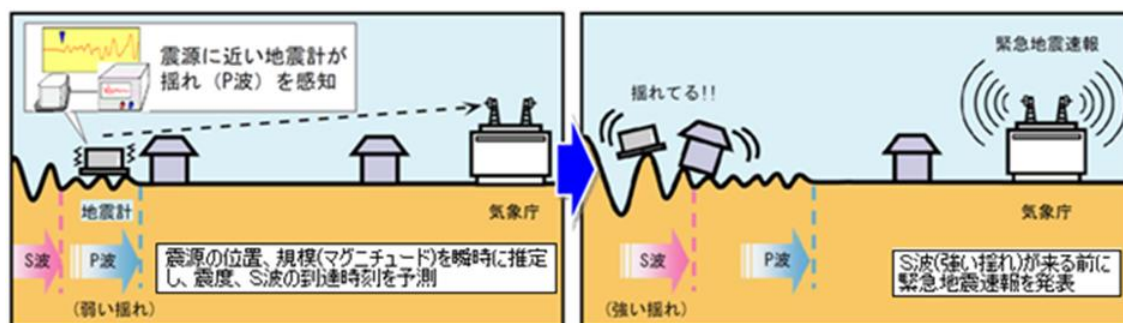
4. 地震情報

地震が発生すると震度や震源などの地震情報が気象庁から発表されます。主な地震情報は以下のとおりです。地震情報を正しく理解して、適切に行動しましょう。

【緊急地震速報】

強い揺れがくることを知らせる → 身を守るための行動をしましょう

地震の発生直後に各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、強い揺れがくることを知らせる情報です。緊急地震速報は、テレビ・ラジオ・防災行政無線で放送され、携帯電話にも配信されています。緊急地震速報を見聞きしたら、強い揺れに備えましょう。ただし、震源に近い地域では、強い揺れが緊急地震速報よりも先にくることがあります。



先に到達する地震の揺れ（P波）を感知し、後に伝わる強い揺れ（S波）を予測して速報します。

（気象庁ホームページより）

【震度速報】

震度3以上を観測した地域と時刻を速報する

地震発生約1分半後に、震度3以上を観測した地域名と地震の揺れの検地時刻を速報します。

【震源に関する情報】

とりあえずは津波の心配はない場合に震源などを知らせる

「津波の心配がない」または「若干の海面変動があるかもしれないが被害の心配はない」旨を付加して、地震の発生場所（震源）やその規模（マグニチュード）を発表します。

【震源・震度に関する情報】

震度3以上を観測した場合に地域名と震度を知らせる

地震の震源やその規模、震度3以上の地域名と市町村毎の観測した震度を発表します。震度5弱以上と考えられる地域で、震度を入手していない地点がある場合は、その市町村名を発表します。

【各地の震度に関する情報】

震度1以上を観測した地点、震源、規模を知らせる

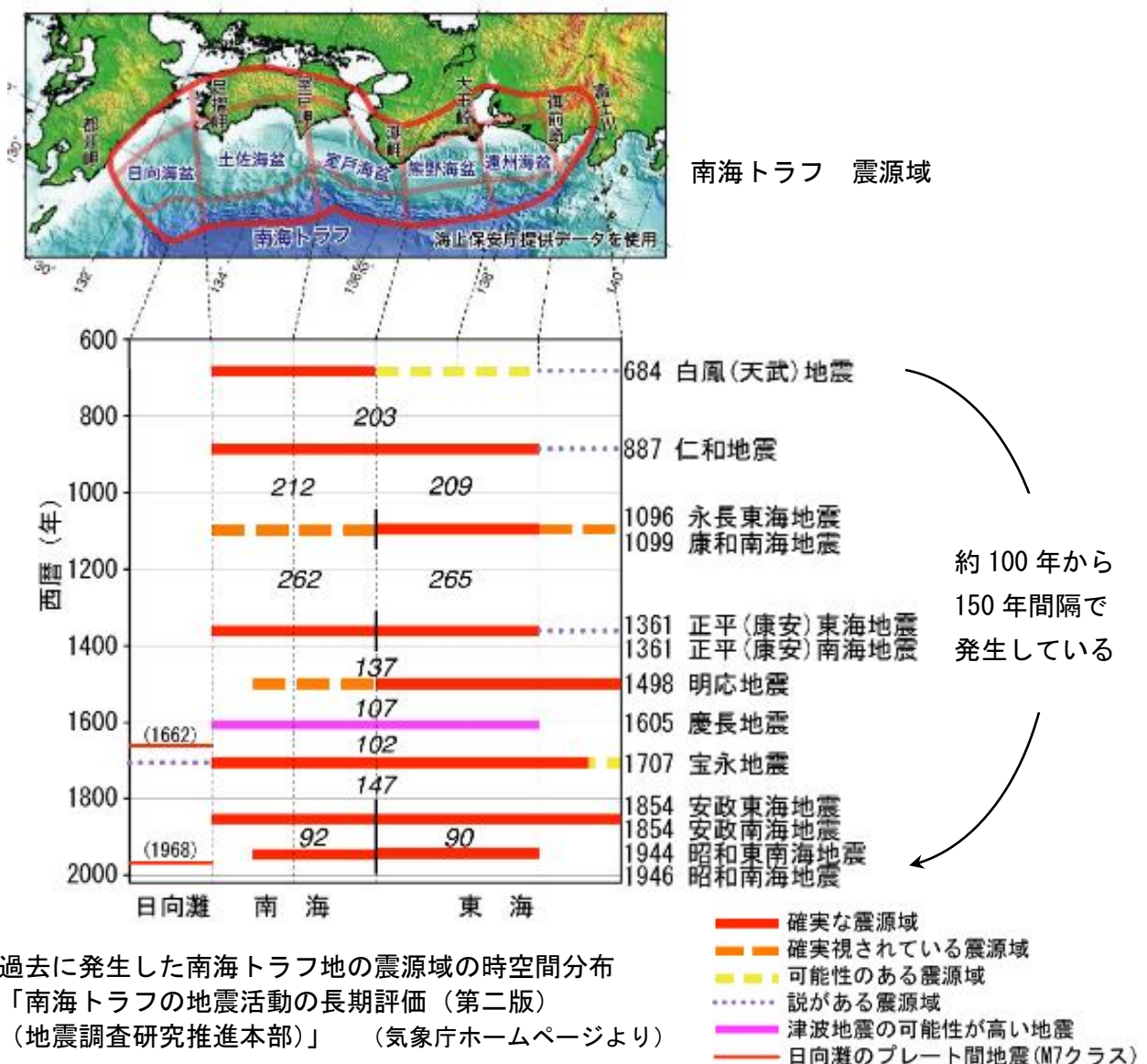
震度1以上を観測した地点のほか、地震の震源や規模を発表します。震度5弱以上と考えられる地域で、震度を入手していない地点がある場合は、その地点名を発表します。

【南海トラフ地震に関連する情報】

南海トラフ地震とは

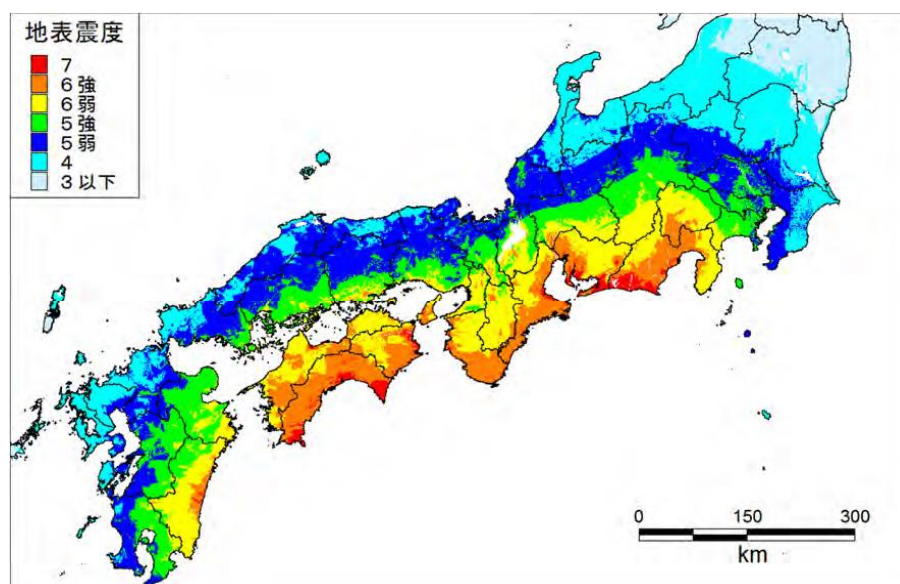
駿河湾から遠州灘、紀伊半島の南の海域、四国沖を経て日向灘沖までのフィリピン海プレートとユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を「南海トラフ」といいます。南海トラフ沿いのプレート境界では、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に1年あたり数cmの速度で沈み込んでいます。このプレート境界で発生する地震を「南海トラフ地震」といいます。南海トラフ地震は、約100～150年間隔で繰り返し発生しており、前回の南海トラフ地震（1944年昭和東南海地震・1946年昭和南海地震）から70年以上が経過した現在では、南海トラフ全域で大規模地震発生の可能性が高まっています。なお、東海地震は、南海トラフ地震のひとつで、駿河湾から静岡県の内陸部を想定震源域とするマグニチュード8クラスの地震です。

南海トラフ地震の予測の現状については「地震の発生時期や場所・規模を確度高く予測する手法はなく、地震の予測には不確実性を伴います。しかし、南海トラフ地震の想定震源域におけるプレートの状態の変化を検知すれば、定性的に地震発生の可能性が高まっていることはいえる」と考えられています。



南海トラフ地震で想定される震度

中央防災会議（2013）によると、南海トラフ巨大地震が発生した場合には、静岡県から宮崎県にかけての一部で震度 7 となる可能性があり、隣接する周辺の広い地域では震度 6 弱～6 強、伊豆大島では最大震度 5 弱～5 強と想定されています。また、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に 10m を超える大津波の襲来が想定されています。ただし、この被害想定は、発生過程が様々な南海トラフ地震の一つのケースであり、必ずしも想定どおりの揺れや津波が発生するわけではありません。



南海トラフ巨大地震の震度分布「南海トラフ巨大地震の被害想定（第二次報告）」
（中央防災会議、2013）

南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件

南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについて、以下の情報が気象庁から発表されます。ただし、南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。なお、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は、現在はありません。

【南海トラフ地震に関連する情報（臨時）】

南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ地震と関連するかどうか調査を開始した場合、観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合などに発表されます。

もし、南海トラフ地震発生の可能性が高まった旨の情報が発表された場合には、家具の固定、避難場所の確認、家族との連絡方法の取り決め、備蓄品の点検、想定津波到達時間、津波避難マップなどを確認しましょう。この防災の手引きも参考にしてください。

【南海トラフ地震に関連する情報（定例）】

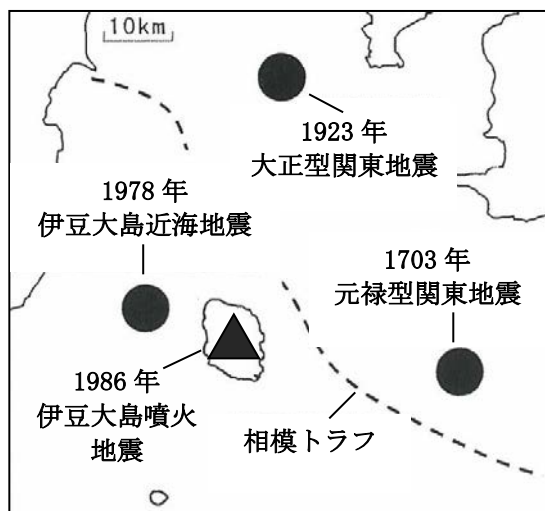
「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合において評価した調査結果を発表する場合に発表されます。

5. 伊豆大島で過去に起こった大きな地震

伊豆大島は、フィリピン海プレート上の北端に位置し、北米プレートとの境界に接しています。相模トラフと呼ばれるこの境界では、1703年に元禄型関東地震、1923年に大正型関東地震が起こり、津波も発生しました。

また、伊豆大島から伊豆半島にかけては、プレートの内部に力が加わって発生する地震の多い地域です。1978年伊豆大島近海地震は、この地域で起こりました。

火山が噴火したときにも大きな地震が起こることがあります。1986年伊豆大島噴火では、噴火に伴って震度5の地震が起こりました。



伊豆大島付近の主な被害地震の震源

伊豆大島近海地震

1978年1月14日12時24分に伊豆大島西方沖（伊豆大島と伊豆半島との間）を震源とする「伊豆大島近海地震」が起こりました。この地震のマグニチュードは7.0、震度は5で、家屋損壊211棟、道路損壊15ヶ所、水道破損52ヶ所、などの被害が発生しました。この日には震度1以上の地震が150回以上も観測され、その後、数日間にわたり地震が多発しました。なお、地震との関係は明らかではありませんが、数日前からキジやリスが騒いでいたと言われています。



伊豆大島近海地震によるブロック塀の倒壊



墓石の倒壊

6. 元禄型関東地震・南海トラフ沿いで発生する巨大地震に備える

内閣府は、南海トラフ沿いでマグニチュード9クラスの巨大地震が発生した場合には、西日本を中心とする広い範囲に強い揺れと巨大な津波が襲い、東日本大震災を超える甚大な被害になると予想しました。伊豆大島では、最大震度は5強と予想されています。

また、元禄型関東地震の想定では、最大震度は6弱～6強と予想されています。1969年～2013年までに伊豆大島で観測した地震の最大震度は5でした。震度5は5回観測されており、1回は伊豆大島近海地震、他の4回は1986年伊豆大島噴火による地震です。このように震度5クラスの地震は経験していますが、それ以上の震度6強の揺れになることを想定して、備えをしておくことが重要です。

もし、このような巨大地震が発生した場合には、岡田地区、泉津地区、波浮港地区などの急傾斜地ではがけ崩れの危険があります。自分の住んでいる付近に危険な場所はないか、確認しておきましょう。また、首都圏など広域に被災すると伊豆大島は孤立する恐れがあり、ライフライン・流通停止により、生活を維持することが困難になると予想されます。例えば、こんなことが起こるかもしれません。

- ・電気が止まると・・・ ご飯が炊けない
- ・水道が止まると・・・ トイレが使えない
- ・港湾が損壊すると・・・ 船が着岸できない
- ・通信が途絶すると・・・ どこで何が起きているか分からない

食料、水、生活必需品の備蓄をし、ある程度自給自足できるようにしておきましょう

では、食料と水はどのくらい備蓄しておけばよいでしょうか

食料と水は1週間分の備蓄が望ましいとされています。飲料水は一人1日3リットル、1週間では21リットル(2リットルのペットボトル約10本) 必要です。4人家族では、ペットボトル42本にもなります。水だけでもこれだけの量になりますので、日常的に使用しながら補充したり、生活用水はお風呂に水を貯めたりしておきましょう。食料品も日常的に使用するものを中心にして、使用と補充を繰り返せばよいでしょう。

1週間分でよいでしょうか

被害が広域に発生すると、食料など物資の供給が困難になることが予想されます。首都圏の機能が低下すると、支援物資も確実に届くかどうか分かりません。できれば、2週間から3週間程度の食料、例えば根菜類等の腐りにくい野菜や果実など常温でも長期保存ができる食材を毎日の献立に使いながら効果的に備蓄すればよいでしょう。

また、断水・停電になった場合、トイレの使用ができなくなります。簡易トイレや凝固剤が便利です。排泄回数を目安は一人1日5～7回程度です。

さらに、最大クラスの地震・津波が発生した場合には、物資の供給が長い期間に渡って止まる恐れもあります。天水、家庭菜園、炭、コンロなどを利用して自給自足的な生活が少しでもできるように工夫しましょう。

津波編

津波はいちどに多くの人々が犠牲になる恐れのある現象

2011年3月11日東日本大震災では、死者・行方不明者が約2万人にもなりました。このときのような最大級の津波は、海岸から激流となって陸地を遡上し、ほとんどの物を破壊して押し流し、そして、海へ引き込んでいきます。もし、人が津波に巻き込まれたら、瓦礫に当たったり、砂などを吸い込んだりするので、助かることは難しいでしょう。私たちの住む伊豆大島でも過去には、津波による大きな災害が発生しています。

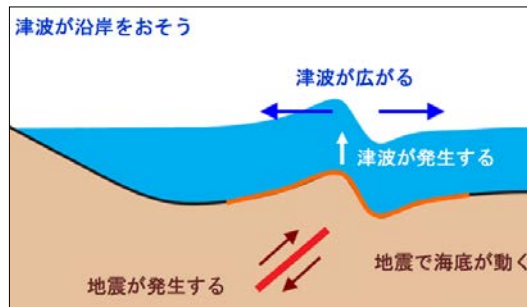
津波から身を守る唯一の方法は津波がくる前に避難

避難のためには、津波の特徴や津波情報、避難経路などを知っておくことが大切です。

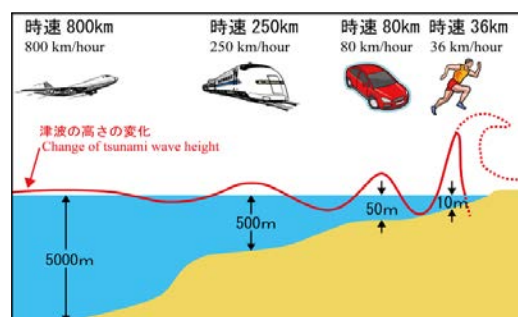
1. 津波の発生する仕組みと特徴

プレート境界で引きずり込みに堪えられなくなった陸側のプレートが、反動で大きく動くと、その上の海水が上下に波打ち、周囲へ伝わっていきます。これが津波です。津波は、水深が深いところほど速く伝わり、海岸付近に達すると高さが急激に増します。

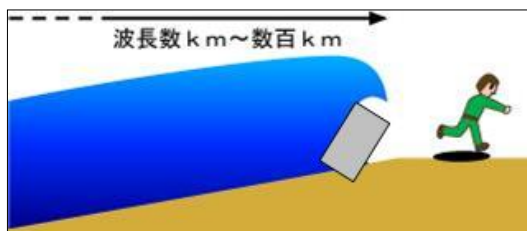
また、津波は、火山が噴火したときに山体が崩壊して、大量の土砂や岩石が海へ流れ込んだ場合に発生することもあります。



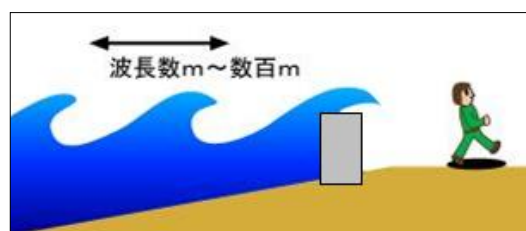
津波の発生する仕組み



津波の伝わる速さ



津波



台風などの波

(気象庁ホームページより)

津波は、台風や低気圧の波とは違って、波の山から谷までの長さが非常に長く、海底から海面までの海水全体が押し寄せてきます。津波が陸地に達すると、障害物の少ないところでは、標高の高いところまで遡上していきます。そして、長い時間をかけて、何回もくりかえし襲ってきます。海底から海面までの膨大な量の海水が高速で高さを増しながら何度も襲ってくるのです。このような津波の特徴が大きな災害になる原因です。

2. 津波から身を守るには

【地震の揺れを感じたら避難】

- ◎強い揺れ（震度 4 程度以上）を感じたら、海岸付近からできるだけ高い所へ避難
- ◎弱くてもゆっくりとした揺れを感じたら、海岸付近からできるだけ高い所へ避難
- ・気象庁が地震を観測してから津波警報を発表するまでには数分程度かかります。もし、強い揺れを感じたら、海岸付近から高い所へすぐに避難しましょう。特に、相模トラフを震源とする地震の場合には、数分で津波が襲ってくる可能性がありますので、津波警報が間に合わないと考えて、すぐに避難しましょう。
- ・伊豆大島から遠く離れた所で大きな地震が発生した場合には、ゆっくりとした揺れを長い時間に渡って感じる場合があります。東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の伊豆大島の最大震度は 3 でしたが、船に乗っているようなゆっくりとした揺れが数分続きました。このような場合にも、海岸付近から高い所へすぐに避難しましょう。

【大津波警報・津波警報・津波注意報が発表されたら地震の揺れを感じなくても避難】

- ◎大津波・津波警報が発表されたら、すぐに高台へ避難
- ◎津波注意報が発表されたら、海水浴や釣りは中止して海から離れる
- ・大津波警報、津波警報を見聞きしたらすぐに高台へ避難しましょう。津波注意報の場合は、すぐに海から離れましょう。
- ・遠方で発生した津波は長い時間をかけて伝わってきます。1960 年チリ地震では、24 時間以上経ってから 6 メートルの津波が三陸海岸を襲い、142 名が犠牲になりました。地震の揺れを感じなくても大津波警報や津波警報が発表されたら、避難しましょう。
- ・津波来襲までに十分に時間がある場合は、火元の点検、貴重品の持ち出し、家族への連絡、災害時要配慮者への支援など落ち着いて確実な避難行動をとりましょう。

【どこへ避難する】

- ◎大津波警報が発表されたら、大津波警報目標ラインまで避難
- ◎津波警報が発表されたら、津波警報目標ラインまで避難
- ◎津波注意報が発表されたら、津波注意報目標ラインまで避難
- ◎躊躇せずに、近所に大きな声で知らせながら、遠くではなく高い所を目指して避難
- ◎沢沿い、低い場所を通らない
- ◎危険を感じたら、目標ラインよりもさらに高い所へ避難
- ・津波避難マップを正しく理解し、避難の目標にしましょう。津波は遡上してきます。危険を感じたら、目標ラインにこだわらずにさらに高い所へ避難しましょう。



【正しい情報を入手する】

- ◎テレビ、ラジオ、防災行政無線の放送、携帯電話などで正確な情報を入手する

【いつまで避難】

- ◎津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報・津波注意報が解除されるまで避難

【避難の目標】 危険を感じた場合は、さらに高い所へ避難して下さい。

避難対象領域：大津波警報目標ラインの海側

大津波警報が発表されたら

突然大きな強い揺れを感じたら

大津波警報による避難勧告・避難指示が発令されたら



大津波警報避難目標ラインへ
すぐに避難

- ・最大クラスの津波が襲ってくると考えて、すぐに避難してください

避難対象領域：津波警報目標ラインの海側

津波警報が発表されたら

大きな揺れやゆっくりした長い揺れを感じたら

津波警報による避難勧告・避難指示が発令されたら



津波警報避難目標ラインへ
すぐに避難

- ・海岸付近や海に近い住宅地からは、すぐに避難してください

避難対象領域：津波注意報目標ラインの海側

津波注意報が発表されたら

津波に注意の防災行政無線の放送があったら



津波注意報避難目標ラインへ
すぐに避難

- ・海水浴や釣りなどは中止して海岸から離れ、桟橋からも避難してください。

【避難目標ラインはどのように設定したか】

津波避難マップの避難目標ラインは、「中央防災会議の津波避難対策検討ワーキンググループ」の報告等を踏まえ「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」の3段階における津波の高さに対応した浸水域を想定して設定しました。

「大津波警報」での避難目標標高

南海トラフ沿いの巨大地震による最大クラスの津波の高さ（想定）を使用して、津波の遡上高を2倍と仮定し、地区ごとに避難目標標高を求めました。ただし、泉津漁港周辺では、元禄地震による津波の高さ（想定）を使用しました。

- ・20m または 25m か 30m（5m ごとに切り上げ）＝各地区の最大津波高 × 2（遡上高）

「津波警報」での避難目標標高

海岸～海岸に近い所の住宅なども避難の対象になります。

- ・10m（7m を 10m に切上げ）＝ 3（津波警報の基準値）× 2（遡上高）＋ 1（満潮位）

「津波注意報」での避難目標標高

海の中や海岸が避難の対象になります。

- ・3m ＝ 1（津波注意報の基準値）× 2（遡上高）＋ 1（満潮位）

4. 日頃からの備え

- ◎避難目標地点、避難路、避難場所、避難にかかる時間などの確認
- ◎家族との連絡方法（災害用伝言ダイヤルなど）の確認
- ◎自主防災組織の班や班長、班員の名前の確認
- ◎戸別受信機の点検、飲料水・食料の備蓄、非常持ち出し品の準備
- ・津波避難マップを参考に避難方法、避難経路、避難にかかる時間の確認をしましょう。
自宅、職場などから避難する場合の経路を調べ、地震による土砂崩れの危険性はないか、夜間街灯はあるか、通行できない場所などを確認しておきましょう。また、避難にどのくらいの時間がかかるかを調べましょう。
- ・非常持ち出し品は、すぐに持っていける場所に保管しておきましょう。
- ◎要支援者・要配慮者の避難について
- ・一人で避難することが困難な方については、本人や家族と自主防災組織などで避難方法を事前に話し合っておきましょう。

5. 津波情報

【大津波警報・津波警報・津波注意報】

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。 ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！  津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)の1シーン	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。  (10mを超える津波により木造家屋が流失)
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	 津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)の1シーン	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。  豊頃町提供 (2003年)
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。 	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。 

(気象庁ホームページより)

6. 伊豆大島の過去の津波災害

【元禄型関東地震】

1703 年 12 月 31 日 02 時 M8.2

震源 相模湾

岡田港で 10 メートルの津波

死者 54 名、行方不明 2 名、人家 58 軒、船舶 18 隻
波浮の火口湖が海とつながる



【大正型関東地震】

1923 年 9 月 1 日 11 時 58 分 M7.9

震源 房総半島南端野島崎沖

岡田港で 12 メートルの津波

崖崩れによる死者 7 名※、家屋全壊 8、半壊 109、
浸水 4、船が 2 階に上がる



伊豆大島の主な津波災害の記録は 2 件あります。2 件とも岡田で発生しました。津波を引き起こした地震は、元禄型関東地震と大正型関東地震です。いずれも相模トラフを震源とする巨大地震であり、震源地が近いので、数分程度で津波が襲ってきたと考えられます。

元禄型関東地震では、推定 10 メートルの津波が岡田港に押し寄せ、死者・行方不明者 56 名となりました。また、当時、火口湖であった波浮の池が、津波により決壊して海とつながりました。

大正型関東地震では、岡田港で、がけ崩れにより 7 名（※4 名または 5 名という記録もあります）が亡くなりました。このときの津波の高さは 12 メートルと推定され、海水が沖合に引いて、海底が露出し、その後に津波が襲ってきました。津波は、八幡神社付近まで遡上し、津波が引いたときにはたくさんの魚が取り残されていたと言われています。

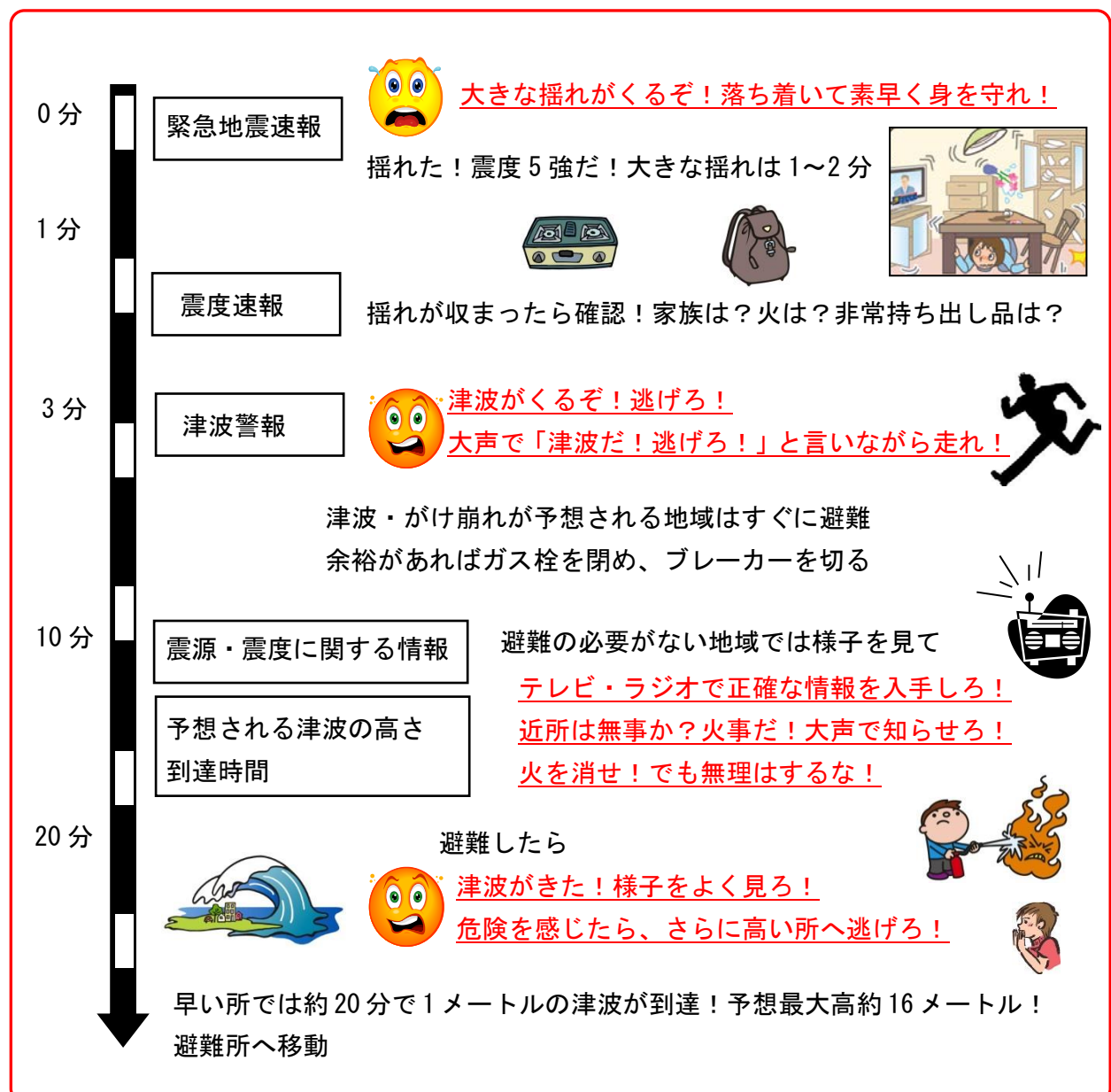
大正型関東地震のときには、泉津でも海水が沖合に引いて港の水が無くなり、その後に津波が襲来、漁港の上の道路まで到達したと言われています。津波は、いつも引き波から始まるわけではありませんが、普段の状態と比べて海が大きく変化するのは、危険が迫っている兆しです。海面の異常な状態（渦を巻く、白波が大きく立つ、潮位が大きく変動する）や海鳴りなどを感じた場合にもすぐ避難しましょう。

7. 南海トラフ沿いの巨大地震と元禄型関東地震による津波の想定

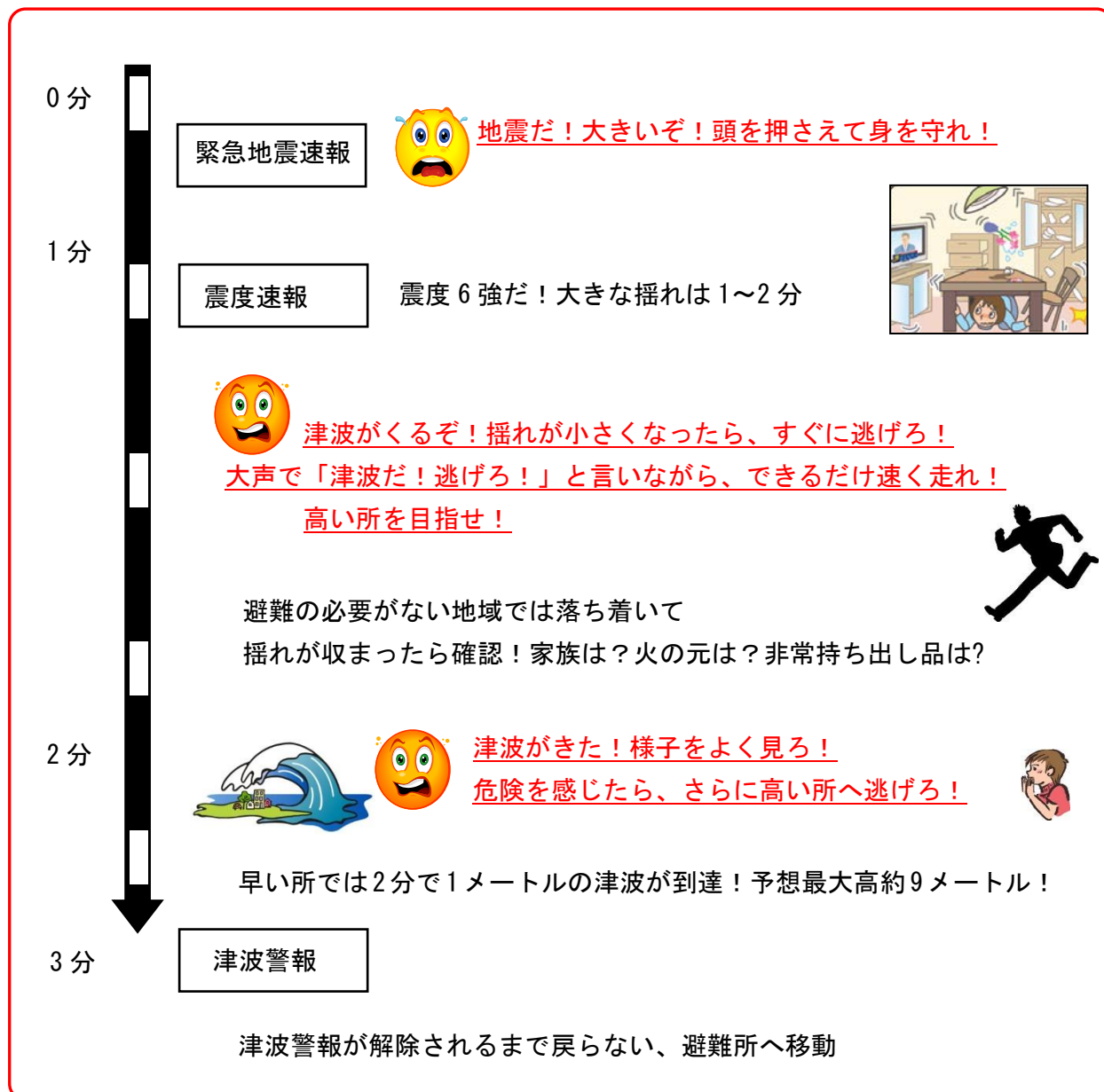
想定	南海トラフ沿い巨大地震	元禄型関東地震
震源域	駿河トラフ～南海トラフ	相模トラフ
地震の規模（マグニチュード）	M9.0	M8.2
伊豆大島の最大震度	5 強	6 強
伊豆大島の最大津波高	15.76 メートル	8.69 メートル
最大津波高の到達時間	22 分	11 分
津波高 1mの到達時間（最も早い地点）	20 分	2 分

南海トラフ巨大地震等による東京都の被害想定報告書（東京都防災会議、平成 25 年 3 月）より

【南海トラフ沿いの巨大地震が起きたら】



【元禄型関東地震が起きたら】



【てんでっこ】

岡田地区には「てんでっこ」と伝えられている言葉があります。三陸地方の「津波てんでんこ」と同じで、津波のときには「てんでんばらばら」に逃げろという意味です。津波の恐れがあるときには、ひとりひとり、ためらわずに避難することが命を守ることにつながります。

過去の災害からの教訓による伝承は、津波に限らず、例えば「びやく（土石流）」のように地域の災害から身を守る知恵として非常に重要です。

8. 大島町地域ごとの津波避難計画

大島町では、津波から生命を守るために津波から逃げることを基本として、想定する津波に対して人的被害を可能な限り軽減し、観光客も含め、迅速かつ確実な避難を実現するため、平成 30 年 2 月に「大島町津波避難計画」を策定しました。しかし、津波に対してどのように避難するかは、避難経路上の沢や崖などの危険箇所、安全な場所までの距離など、地域の状況によって変わります。そこで、平成 30 年 4 月に島内 8 地区において、地域住民が参加して「地域ごとの津波避難計画検討会（下の写真）」を開催しました。この検討会では、想定する津波・避難目標地点・避難経路・危険箇所などの確認を行い、避難行動についての協議を行いました。その成果を反映し、平成 31 年 3 月に「大島町地域ごとの津波避難計画」を策定しました。



野増地域防災コミュニティセンター 4月25日



間伏地域防災コミュニティセンター 4月26日

【避難の対象地域】

津波からの避難の対象地域と避難対象地域内の世帯人数は下記表のとおりです。

対象地区	避難対象地域	避難対象世帯人数 (平成 31 年 2 月 1 日現在)
泉津地区	泉津、(泉津字) 秋之原、松山、川之原	21 世帯 37 名
岡田地区	岡田 1～7 番地、(岡田字) 笹郷、新開	54 世帯 84 名
北の山地区	(元町字) 野地の原、野地、北野原、北野、赤禿	33 世帯 68 名
元町地区	元町 1、2 丁目、(元町字) 神田屋敷、新込、和泉、神明、八重の水、水溜、仲の原、仲野、金砂、五輪)	347 世帯 550 名
野増地区	野増 1～12、15～20 番地、(野増字) ノムナカ、マッコウ、ワダ、ヲワナ、王の上、王若、大宮	135 世帯 210 名
間伏地区	野増字間伏、(野増字間伏) ナホヲ、フッコミ、ミヤノヤブ	45 世帯 77 名
差木地地区	差木地 2～5 番地、	27 世帯 39 名
クダッチ地区	差木地字クダッチ	15 世帯 27 名
波浮港地区	波浮港 1、17、18 番地	21 世帯 39 名
大 島 全 体		698 世帯 1,131 名

【避難目標標高と想定地震・津波】

避難の対象範囲における避難目標標高、地震の種類、最大震度、最大津波高、1m 津波高到達時間、最大津波高到達時間は下記表のとおりです。

対象範囲	避難目標 標 高	地震の種類	最大 震度	最大津波高	1m津波高 到 達 時 間	最大津波高 到 達 時 間
元町港周辺	30m	南海トラフ	5 強	13.22m	20.2 分	28.2 分
		元禄型	6 弱	3.71m	5.7 分	17.7 分
元町港・ 元町漁港周辺	25m	南海トラフ	5 強	10.43m	20.2 分	28.2 分
		元禄型	6 弱	3.50m	5.7 分	18.6 分
和泉浜周辺	20m	南海トラフ	5 強	9.42m	20.2 分	22.5 分
		元禄型	6 弱	3.46m	4.8 分	9.0 分
万立浜周辺	20m	南海トラフ	5 強	7.67m	20.2 分	22.4 分
		元禄型	6 弱	3.04m	3.7 分	15.9 分
岡田港周辺 岡田港・漁港	20m	南海トラフ	5 強	8.59m	22.9 分	30.0 分
		元禄型	6 弱	5.31m	2.1 分	8.6 分
野田浜周辺	20m	南海トラフ	5 強	8.97m	20.7 分	23.3 分
		元禄型	6 弱	4.84m	2.7 分	7.3 分
泉津漁港周辺 泉津漁港	20m	南海トラフ	5 強	3.72m	23.0 分	33.3 分
		元禄型	6 弱	4.21m	2.0 分	9.1 分
野増漁港 野増漁港周辺	30m	南海トラフ	5 強	13.96m	20.3 分	27.8 分
		元禄型	6 弱	2.92m	6.7 分	13.3 分
砂の浜周辺 間伏地域	30m	南海トラフ	5 強	12.74m	19.7 分	22.5 分
		元禄型	6 弱	4.49m	9.2 分	14.2 分
差木地漁港 周辺	25m	南海トラフ	5 強	10.94m	20.2 分	23.3 分
		元禄型	6 弱	4.81m	7.0 分	11.6 分
差木地漁港	20m	南海トラフ	5 強	9.03m	20.6 分	22.5 分
		元禄型	6 弱	3.70m	9.1 分	11.9 分
波浮港周辺 (クダッチ)	25m	南海トラフ	5 強	9.90m	21.0 分	23.3 分
		元禄型	6 弱	5.69m	5.2 分	10.3 分
波浮港	20m	南海トラフ	5 強	7.21m	21.7 分	24.4 分
		元禄型	6 弱	5.79m	5.2 分	10.0 分
筆島周辺	20m	南海トラフ	5 強	8.56m	22.9 分	25.0 分
		元禄型	6 弱	6.09m	4.6 分	10.6 分
大島全体 (千波付近) (筆島付近)		南海トラフ	5 強	15.76m	19.7 分	22.4 分
		元禄型	6 弱	8.69m	2.0 分	11.1 分

南海トラフ：南海トラフ巨大地震、元禄型：元禄型関東地震

出典：「南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定報告書 津波高・津波浸水域等詳細図」

東京都防災会議（平成 25 年 3 月）

【指定緊急避難場所】

指定緊急避難場所は、津波の危険から緊急に避難するための高台や施設などで、津波避難ビルや津波避難タワーを除いて、避難対象地域（避難目標ライン）よりも標高の高い場所に指定しています。

命を守ることを優先するため、情報機器、非常用電源、非常食、毛布などが整備されていない場合もあります。

地 区	指定緊急避難場所	住所	標高 (m)	避難対象地域
泉 津	泉津公民館広場	泉津字川之原	25	泉津地域 泉津漁港、秋の浜遊泳場
	泉津地域センターグラウンド (旧泉津小学校)	泉津字不重	49	泉津地域、海のふるさと村 大島公園海岸遊歩道
岡 田	岡田コミュニティセンター駐車場	岡田字助田	61	岡田地域、岡田港、岡田船客 待合所、日の出浜、岡田漁港
	さくら小学校グラウンド	岡田字長坂	92	野田浜周辺
北の山	北の山地域センターグラウンド (旧北の山小学校)	元町字佐吾右衛門 野地	40	北の山地域、万立浜周辺
元 町	役場公共駐車場	元町1丁目1番 14号	30	元町地域、元町港、元町船客 待合所、元町漁港
	つばき小学校グラウンド	元町字家の上	54	弘法浜、サンセットプール、 火山博物館、神田屋敷
	第一中学校グラウンド	元町字小清水	44	元町地域、長根浜周辺、元町 浜の湯、御神火温泉
	大島高等学校グラウンド	元町字八重の水	34	和泉浜周辺
野 増	野増地域 防災コミュニティセンター	野増169番1	33	野増地域、野増漁港、王の浜
間 伏	間伏地域 防災コミュニティセンター	野増字間伏フッコミ	48	間伏地域、砂の浜
差木地	差木地地域センターグラウンド (旧差木地小学校)	差木地1番地	47	差木地地域 差木地漁港
クダッチ	第三中学校グラウンド	差木地字クダッチ	67	クダッチ地域
	大島海洋国際高等学校 グラウンド	差木地字下原	27	クダッチ地域、トウシキ園 地、トウシキ遊泳場、トウシ キヘリポート
波浮港	波浮港地域センターグラウンド (旧波浮小学校)	波浮港17番地	50	波浮港地域、筆島
	波浮港老人福祉館広場	波浮港6番地	52	波浮港地域 波浮港

【指定避難所】

指定避難所は、住宅が損壊した被災者などが仮設住宅などに移転できるまでの間や比較的長期にわたって避難する施設で、避難対象地域(避難目標ライン)よりも標高の高いところに設置しています。

施設内には、原則として、非常食、保存水、炊き出し用具、毛布など避難生活に必要な物資が整備されています。

地 区	指定避難所	住 所	面積 (㎡)	収容 人数
泉 津	泉津公民館◇	泉津字川之原	245	141
	泉津地域センター体育館 (旧泉津小学校)	泉津字不重	822	473
岡 田	岡田コミュニティセンター	岡田字助田	571	329
	さくら小学校体育館	岡田字長坂	895	515
	第二中学校体育館		705	406
北の山	北の山公民館	元町字佐吾右衛門野地	475	273
	北の山地域センター体育館 (旧北の山小学校) ◇		528	304
元 町	大島町開発総合センター	元町 1 丁目 1 番 14 号	814	469
	つばき小学校体育館	元町字家の上	905	521
	第一中学校体育館	元町字小清水	1,083	624
	大島高等学校体育館等	元町字八重の水	4,233	1,971
野 増	野増地域防災コミュニティセンター	野増 169 番 1	340	196
間 伏	間伏地域防災コミュニティセンター	野増字間伏フッコミ	166	96
差木地	差木地公民館	差木地 1 番地	610	351
	差木地地域センター体育館 (旧差木地小学校)	差木地 1 番地	797	459
クダッチ	第三中学校体育館	差木地字沖の根	900	518
	つつじ小学校多目的室	差木地字沖の根	278	160
	クダッチ老人福祉館	差木地字下原	401	231
	大島海洋国際高等学校体育館等	差木地字下原	2,020	1,163
波浮港	波浮港老人福祉館	波浮港 6 番地	423	244
	波浮港地域センター体育館 (旧波浮小学校)	波浮港 17 番地	797	549

「◇」は耐震改修が未改修または耐震診断が未実施の施設

【避難行動時の留意点】

「地域ごとの津波避難計画検討会」では、津波から避難する場合に危険と思われる箇所や注意すべき点、車の利用などについて検討を行いました。その結果を避難行動時の留意点として整理しました。

「共通の留意点」

- 沢沿いの道路は津波が遡上することもあるので注意が必要である。
- 町で指定した避難路には、トンネル、ブロック塀や石垣、倒壊しやすい建造物、土砂災害特別警戒区域等の注意が必要な箇所もある。
- 地域住民は日ごろから、要配慮者について避難時の安全確保に向けた話し合い等が必要である。
- 観光客の避難誘導は、可能な限り地域住民も協力する。
- 徒歩での避難を原則とする。
- 車での避難は、避難目標ラインの海側に住む要配慮者と支援者とし、自主防災組織で決めておくものとする。
- 車での避難は、山側から海側へ走行しない。

「地域の留意点」

(泉津)

- 泉津漁港周辺の最大津波高到達時間は 9 分。
- 都道の新延浜橋、聖地橋付近は土地が低いため、津波警報が解除されるまでは近づかない。
- 大島公園から避難所までは、車での避難を可とする（津波発生中は大島公園で待機する）。

(岡田)

岡田港周辺

- 岡田港周辺の最大津波高到達時間は 8 分。
- 岡田港栈橋先端、岡田漁港栈橋先端から避難目標地点まで 500m 以上ある。
- 岡田港の港湾内から避難目標地点まで退避する猶予が無い場合は、津波避難施設（津波避難タワー）へ退避する。

岡田港の津波避難施設（津波避難タワー）は、今後、指定緊急避難場所に指定する予定です。

野田浜、新開周辺

- 野田浜周辺の最大津波高到達時間は 7 分。
- 野田浜周辺から避難目標地点まで 500m 以上ある。
- 野田浜、サンセットパームラインから避難所まで遠い人は、車での避難を可とする。
- 避難所までの経路に保育園があるので車での避難は注意する。

(北の山)

- 万立浜周辺の最大津波高到達時間は 15 分。
- サンセットパームライン野地付近、万立浜付近は避難目標地点まで 500m 以上ある。
- 空港中央トンネルは、冠水しやすいので避難には注意が必要である。
- サンセットパームラインから各トンネルの入り口までは、乗り合いで車での避難を可とする（状況に応じてその後も利用可能）。
- トンネルが危険な状況の場合は、三峰神社等の高台へ避難する。

(元町)

- 和泉浜周辺の最大津波高到達時間は 9 分。
- 元町港周辺の最大津波高到達時間は 17 分。
- 元町港栈橋先端・漁港栈橋先端、和泉浜周辺は避難目標地点まで 500m 以上ある。

(野増)

- 野増漁港周辺の最大津波高到達時間は 13 分。
- 野増漁港栈橋先端は避難目標地点まで 500m 以上ある。
- 要支援者等の車での避難は、都道→大黒屋→郵便局→岩城電気を通行し、林道に車を止める。

(間伏)

- 砂の浜周辺の最大津波高到達時間は 14 分。
- 砂の浜付近は避難目標地点まで 500m 以上ある。

(差木地)

- 差木地漁港周辺の最大津波高到達時間は 11 分。
- さきたま園付近は避難目標地点まで 500m 以上ある。

(クダッチ)

- 波浮港周辺の最大津波高到達時間は 10 分。
- 避難岸壁は避難目標地点まで 500m 以上ある。

(波浮港)

- 波浮港、筆島周辺の最大津波高到達時間は 10 分。
- 筆島付近から避難所までは、車での避難を可とする。

津波！

ひなんもくひょう

避難目標ラインよりさらに高台へ避難！

たか だい

大島町津波避難マップ

泉津

泉津地域センター
(旧泉津小学校体育館)

松山

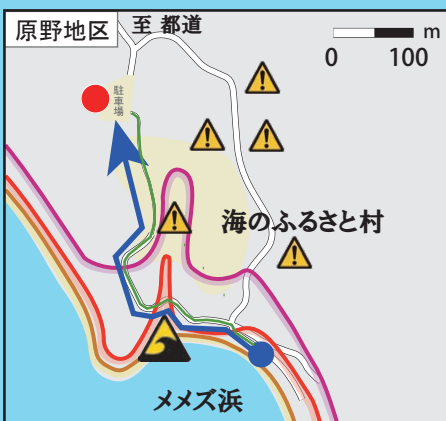
河内

腰之下

大坂

凡 例

- 避難場所
- 津波遡上注意
- 避難時注意
- 防災行政無線
- 標高
- 標高杭
- 避難路
- 避難目標地点
- 避難経路モデル



種類	避難目標ライン
大津波警報 → 高台を目指してすぐ避難	――
津波警報 → 海岸に近い住宅は避難	――
津波注意報 → 海水浴・釣りは避難	――

避難目標標高と想定地震・津波

対象範囲	避難目標 標 高	地震の種類	最大 震度	最大 津波高	1m津波高 到達時間	最大津波高 到達時間
泉津漁港周辺 泉津漁港	20m	南海トラフ 元禄型	5強 6弱	3.72m 4.21m	23.0分 2.0分	33.3分 9.1分

泉津漁港

泉津駐在所

泉津分団詰所

泉津公民館

川之原

秋之原

秋の浜



0 100 200 m

秋之尾

津波！

避難目標ラインよりさらに高台へ避難！

大島町津波避難マップ

北部駐在所

岡田港

種類	避難目標ライン
大津波警報 → 高台を目指してすぐ避難	
津波警報 → 海岸に近い住宅は避難	
津波注意報 → 海水浴・釣りは避難	

避難目標標高と想定地震・津波						
対象範囲	避難目標 標 高	地震の種類	最大 震度	最大 津波高	1m津波高 到達時間	最大津波高 到達時間
岡田港周辺	20m	南海トラフ	5強	8.59m	22.9分	30.0分
岡田港・漁港		元禄型	6弱	5.31m	2.1分	8.6分

- 凡 例
- 避難場所

津波遡上注意

避難時注意

防災行政無線

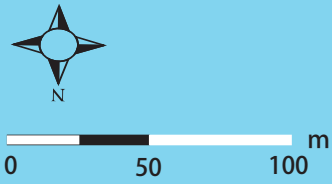
標高

標高杭

避難路

避難目標地点

避難経路モデル



津波!

避難目標ラインよりさらに高台へ避難!

大島町津波避難マップ

北の山と岡田新開

さくら小学校へ

種類	避難目標ライン
大津波警報 → 高台を目指してすぐ避難	――
津波警報 → 海岸に近い住宅は避難	――
津波注意報 → 海水浴・釣りは避難	――

碁石浜

ぶらっとハウス

風待

北の山駐在所

北の山地域センター
旧北の山小学校体育館

大島空港
ターミナルビル

消防本部

大島空港

北の山分団詰所

北の山公民館

愛宕山

郷土資料館

野田浜

新開

根古沢

野地

北野

農免道路

赤禿

神明
栽培漁業センター

新込

万立浜

凡	例
	避難場所
	津波遡上注意
	避難時注意
	防災行政無線
	標高杭
	避難路
	避難目標地点
	避難経路モデル

0 100 200 m



避難目標標高と想定地震・津波

対象範囲	避難目標標高	地震の種類	最大震度	最大津波高	1m津波高到達時間	最大津波高到達時間
野田浜周辺	20m	南海トラフ	5強	8.97m	20.7分	23.3分
		元禄型	6弱	4.84m	2.7分	7.3分
万立浜周辺	20m	南海トラフ	5強	7.76m	20.2分	22.4分
		元禄型	6弱	3.04m	3.7分	15.9分

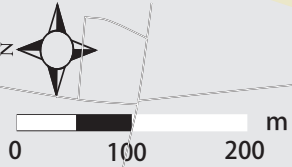
津波!

避難目標ラインよりさらに高台へ避難!

大島町津波避難マップ

和泉浜付近

- 凡 例
- 避難場所
 - 津波遡上注意
 - 避難時注意
 - 防災行政無線
 - 標高
 - 標高杭
 - 避難路
 - 避難目標地点
 - 避難経路モデル



種類	避難目標ライン
大津波警報 → 高台を目指してすぐ避難	
津波警報 → 海岸に近い住宅は避難	
津波注意報 → 海水浴・釣りは避難	

避難目標標高と想定地震・津波						
対象範囲	避難目標標高	地震の種類	最大震度	最大津波高	1m津波高到達時間	最大津波高到達時間
和泉浜周辺	20m	南海トラフ	5強	9.42m	20.2分	22.5分
		元禄型	6弱	3.46m	4.8分	9.0分



津波！避難目標ラインよりさらに高台へ避難！

大島町津波避難マップ

元町港付近



凡 例

- 避難場所
- 津波遡上注意
- 避難時注意
- 防災行政無線
- 標高
- 避難路
- 避難目標地点
- 避難経路モデル

種類	避難目標ライン
大津波警報→高台を目指してすぐ避難	
津波警報→海岸に近い住宅は避難	
津波注意報→海水浴・釣りは避難	

避難目標標高と想定地震・津波						
対象範囲	避難目標標高	地震の種類	最大震度	最大津波高	1m津波高到達時間	最大津波高到達時間
元町港・元町漁港周辺	25m	南海トラフ元禄型	5強	10.43m	20.2分	28.2分
			6弱	3.50m	5.7分	18.6分

津波！

ひなんもくひょう

避難目標ラインよりさらに高台へ避難！

たかたい

大島町津波避難マップ

野増

凡 例	
	避難場所
	津波遡上注意
	避難時注意
	防災行政無線
	標高杭
	避難路
	避難目標地点
	避難経路モデル



0 100 200 m

王若

王の浜

種類	避難目標ライン
大津波警報 → 高台を目指してすぐ避難	
津波警報 → 海岸に近い住宅は避難	
津波注意報 → 海水浴・釣りは避難	

避難目標標高と想定地震・津波

対象範囲	避難目標 標 高	地震の種類	最大 震度	最大 津波高	1m津波高 到達時間	最大津波高 到達時間
野増漁港 野増漁港周辺	30m	南海トラフ 元禄型	5強 6弱	13.69m 2.92m	20.3分 6.7分	27.8分 13.3分

津波！

避難目標ラインよりさらに高台へ避難！

大島町津波避難マップ



0 100 200 m

- 凡 例
- 避難場所
 - 津波遡上注意
 - 避難時注意
 - 防災行政無線
 - 標高杭
 - 避難路
 - 避難目標地点
 - 避難経路モデル

種類	避難目標ライン
大津波警報 → 高台を目指してすぐ避難	
津波警報 → 海岸に近い住宅は避難	
津波注意報 → 海水浴・釣りは避難	

避難目標標高と想定地震・津波						
対象範囲	避難目標標高	地震の種類	最大震度	最大津波高	1m津波高到達時間	最大津波高到達時間
砂の浜周辺	30m	南海トラフ	5強	12.74m	19.7分	22.5分
間伏地域		元禄型	6弱	4.49m	9.2分	14.2分

間伏地域防災コミュニティセンター

間伏
滝川貯水池

野増分団第三部詰所
間伏駐在所

バス停

25 m

津波！

避難目標ラインよりさらに高台へ避難！

大島町津波避難マップ

差木地



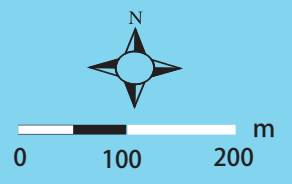
差木地漁港

凡 例

	避難場所		標高杭
	津波遡上注意		避難路
	避難時注意		避難目標地点
	防災行政無線		避難経路モデル

避難目標標高と想定地震・津波						
対象範囲	避難目標標高	地震の種類	最大震度	最大津波高	1m津波高到達時間	最大津波高到達時間
差木地漁港周辺	25m	南海トラフ	5強	10.94m	20.2分	23.3分
		元禄型	6弱	4.81m	7.0分	11.6分
差木地漁港	20m	南海トラフ	5強	9.03m	20.6分	22.5分
		元禄型	6弱	3.70m	9.1分	11.9分

種類	避難目標ライン
大津波警報→高台を目指してすぐ避難	
津波警報→海岸に近い住宅は避難	
津波注意報→海水浴・釣りは避難	





津波！ ひなんもくひょう 避難目標ラインよりさらに高台へ避難！

大島町津波避難マップ 波浮港とクダッチ

種類	避難目標ライン
大津波警報 → 高台を目指してすぐ避難	――
津波警報 → 海岸に近い住宅は避難	――
津波注意報 → 海水浴・釣りは避難	――

- 凡 例
- 避難場所
 - 津波遡上注意
 - 避難時注意
 - 防災行政無線
 - 標高
 - 標高杭
 - 避難路
 - 避難目標地点
 - 避難経路モデル

避難目標標高と想定地震・津波					
対象範囲	避難目標標高	地震の種類	最大震度	最大津波高	1m津波高到達時間
波浮港周辺 (クダッチ)	25m	南海トラフ	5強	9.90m	21.0分
		元禄型	6弱	5.69m	5.2分
波浮港	20m	南海トラフ	5強	7.21m	21.7分
		元禄型	6弱	5.79m	5.2分

津波！

ひなんもくひょう

避難目標ラインよりさらに高台へ避難！

たかたい

おおしままちつなみひなん
大島町津波避難マップ

ふでしまふきん
筆島付近

波浮港地域センター
(旧波浮小学校体育館)

波浮港分団詰所

大島町陸上競技場

海洋国際高校ドミトリ

大島町野球場

筆島展望台
34 m

垣原

23 m

凡 例



避難場所



津波遡上注意



避難時注意



防災行政無線



標高杭



避難路



避難目標地点



避難経路モデル



0 100 200 m

種類

避難目標ライン

大津波警報 → 高台を目指してすぐ避難

津波警報 → 海岸に近い住宅は避難

津波注意報 → 海水浴・釣りは避難

避難目標標高と想定地震・津波

対象範囲	避難目標 標高	地震の種類	最大 震度	最大 津波高	1m津波高 到達時間	最大津波高 到達時間
筆島周辺	20m	南海トラフ	5強	8.56m	22.9分	25.0分
		元禄型	6弱	6.09m	4.6分	10.6分

わが家の防災メモ



あたなの指定緊急避難場所

指定緊急避難場所		
----------	--	--

災害時の安否確認ダイヤル

災害用伝言ダイヤル	171	災害用伝言板 災害時に携帯電話会社が提供します
-----------	-----	-------------------------

家族・親戚・知人の連絡先

名前	電話番号	名前	電話番号

非常持ち出し品の例

【貴重品】

現金、貯金通帳、健康保険証、運転免許証、マイナンバーカード、クレジットカード、各種証書類、鍵、印鑑

【必需品】

常備薬・お薬手帳、家族連絡先メモ・写真、携帯電話

【生活用品、その他】

飲料水、非常食、懐中電灯、携帯ラジオ、ヘルメット、雨具、メモ帳、使い捨てカイロ、電池、タオル、マスク、ティッシュペーパー、歯ブラシ

【赤ちゃん用品】

粉ミルク、哺乳瓶、離乳食、食器、洗浄綿、紙おむつ、バスタオル、母子手帳

各避難所に整備している備品等

・テレビ、防災行政無線戸別受信機、毛布、安眠マット、カーペット、非常食、保存水

2019（平成31）年4月 改訂版

編集・発行／防災対策室